



太鼓の達人™ ドンダフルフェスティバル & ©Bandai Namco Entertainment Inc.

eスポーツの輪を広げたい 川井 啓子さん 稲屋 法子さん

eスポーツを通じて世代を超えた交流や健康づくりを行える石ヶ瀬児童老人福祉センター内の施設「eSportsポイス」の利用者の川井啓子さん(76歳・写真右)と職員稲屋法子さん(69歳・写真左)は2024年10月、「全国健康福祉祭(ねりんピック)」初採用のeスポーツ交流大会に愛知県代表の一員として出場し、見事初代チャンピオンに輝きました。テレビゲーム版『太鼓の達人』を使用した団体戦で、全国から集まった代表33チームの頂点に立つ快挙です。

川井さんがeスポーツを始めたのは同年2月。施設の交流大会で好成绩を残し、週一回ほど楽しむようになりました。周囲の勧めから本大会への出場を決意し、猛練習を始めます。大会では、ランダムに出題される7曲の課題曲を臨機応変に演奏しなくてはなりません。ゲーム歴がそれほど長くない2人は全国の舞台で戦うため、チーム練習と自宅での個人練習を重ねて腕を磨き、各々が曲の得意ジャンルを身に付けることでチームワークと柔軟性を伸ばしていきました。

大会は鳥取県境港市で開催され、3日間にわたり熱戦が繰り広げられました。稲屋さんは「いきなり優勝候補のチームとあり、負けを意識しました」と印象深い初戦を振り返ります。しかし、結果は僅差での逆転勝利。「あの時の喜びは忘れられません。利用者に教えられるよう始めたゲー

ムですが「ここまで熱中していたんだ」と気が付きました」。ドラマチックな逆転劇に勢いがついた彼女らは、その後の試合で全勝優勝を果たしました。川井さんは「体力的に不安もありましたが、周囲の支えで万全の準備ができました」と振り返ります。大会本番、気合いに満ちていた川井さんをさらに励ますサプライズがありました。「出発前に送り出してくれた息子が観客席で応援してくれました。見つけた時の驚きと感激は一生の思い出です」と微笑みます。

eスポーツへの思いについて、川井さんは「知らない人ともすぐに仲良くなれます」と、稲屋さんは「練習すれば必ず上達できる楽しさがあります。年齢に関係なく楽しめるので、もっと多くの人に挑戦してほしい」と強調します。優勝後はeSportsポイスの利用者も増え、地域全体の関心が高まっていることを実感しているそう。2人は「eスポーツを通じて世代を超えた交流の輪が広がるとうれしいです。今後もeスポーツを続け、新たな種目にも挑戦してみたい」と目を輝かせます。

彼女らの熱意と笑顔が、世代を超えてeスポーツの魅力伝えてくれています。



▲表彰台で優勝トロフィーを掲げる川井さん

cover

愛三文化会館で二十歳の集いを開催し、晴れ着に身を包んだ新成人たちが大人としての決意を新たにしました。会場で披露された思い出のスライドショーや恩師からの温かいメッセージに、より一層の再会の喜びを分かち合う参加者の笑顔が印象的でした。

